



早稲田大学の安全への取り組み

早稲田大学では、アスベストが原因とされる疾病が
 増加してきた1988年から1990年にかけて、それ以
 前に天井部分に使用された吹付けアスベストについ
 て、到り込めによる空室中への飛散防止工事を施した。
 それによりアスベストの飛散を抑制しました。

2005年度には、アスベストの危険性が社会問題と
 化している昨今の状況に鑑みて、吹付けアスベストの
 到り込め状態を再確認し、同時に、建物の室内空气中
 のアスベスト濃度の測定を実施しました。調査の結果、
 すべての箇所アスベストの飛散が認められない安定
 状態であることが確認され、測定値も外気と同程度で
 した。

2006年度には吹付けアスベストの一部撤去を実施
 し、その他の既存吹付けアスベストについては状況の
 点検を行い、安全性の確認を行いました。来年度以降
 も、2年間を目途に段階的に撤去工事を実施していま
 ます（地震などの影響により撤去が困難な電気室等に
 ついては、より長期の撤去計画を立てています）。ま
 た、撤去するまでの期間は、毎年定期的に点検を行い、
 安全性を確保していきます。

吹付けアスベスト対策

2006年度吹付けアスベスト撤去箇所

キャンパス名	号 館
西早稲田キャンパス	7号館
	9号館
	12号館 (建物の解体に伴って撤去)
	16号館 (一部) 大観望台
戸山キャンパス	39号館
大久保キャンパス	58号館 (一部)
高等学院	70号館 (一部) 74-4号館

建物の高気密化や化学物質を放散する建材の使用などにより、室内空気中に含まれる化学物質の量が増加し、新築・改修した建物の利用者が体調不良を起こす、シックハウス症候群が問題となつていきます。

早稲田大学では、大学の施設を利用する方々にそのような症状が出ないよう、主に以下の取り組みを行っています。

- 新しく建物を建てる際には、化学物質の放散量の少ない建材を使用しています。
- 適正な空気量が確保された設計としています。
- 新築や改修を行った箇所を中心に室内空気測定を継続的に実施し、「学校環境衛生の基準（文部科学省）」で定める室内濃度換算値を下回っているかどうかをチェックしています。

2005、2008年度には、新築された早稲田キャンパスB号館、小野村記念館、大隈記念タワーの3棟をはじめ、改修したキャリアセンター・国際コミュニケーション・早稲田ポータルオフィスなどの室内空気測定を、早稲田大学環境衛生センター及び外観測定業者において実施しました。

■ 学校環境衛生の基準で定める化学物質

化学物質の名称	主な発生源	濃度限度
ホルムアルデヒド	合板、接着剤、防霉剤	100
トリエン	接着剤、塗料の溶剤、樹脂剤	280
キシレン	塗料、塗料の溶剤、樹脂剤、接着剤	870
エチルベンゼン	塗料、塗料の溶剤、樹脂剤	3800
スチレン	接着剤、断熱材、墨い材	280
パラクロロベンゼン	防虫剤、芳香剤、接着剤	240

■ 近年の早稲田大学の主な建物建設状況

1998年3月～	西早稲田キャンパス14号館
2001年7月～	戸山キャンパス学生会館
2005年2月～	西早稲田キャンパス8号館 小野村記念館
2006年3月～	大隈記念タワー
2006年度以降	大久保キャンパス63号館 河田町キャンパス（仮称）施設

化学物質の安全管理

早稲田大学では、理工学部のある大久保キャンパスをはじめとして、西早稲田キャンパス、研究開発センター、所沢キャンパス、本庄キャンパスなど、さまざまな場所で薬品や高圧ガスなどの化学物質を使用しています。化学物質は、あやまった使い方をすると、爆発や火災など、非常に危険な状況ともなり恐れがあります。早稲田大学は安全に対する法令を順守し、社会に対して責任を果たすための体制を整えているところで、そのために、本学で使用する薬品・高圧ガスにバーコードを貼り付け、Webによって化学物質の出入りを管理する全学共通の化学物質管理システム (CRIS Ver1.0) を2005年度に構築しました。これによって、各研究室・実験室から自家の在庫薬品をWebで閲覧することが可能となり、また万が一、火災が発生した場合にも、出火場所の在庫品情報を、出火後数分以内に消防署等に伝える体制を整備することができました。2008年度には、システムの在庫品情報と共通の在庫薬品とを照合し、その結果をデータベースに反映させて、データ精度を高めました。

今後も、安全に関する構築・講習会を充実させ、より安全な研究・実験環境を整えるなど、ソフト・ハード両面において安全な化学物質管理を推進していきます。



化学物質管理システム画面

実験系の安全管理

早稲田大学では、2008年度に研究活動中の事故が数件発生しました。早稲田大学はこのことを強く受け止め、大久保キャンパスを中心に「教育研究活動における安全の確保」を重要課題とし、事故を未然に防ぐための様々な取り組みを行っています。

また不本意ながら事故が発生してしまった場合には、被害を最小限にとどめる事はもとより、その事故から最大限の再発防止策を学びとり、より安全な実験環境の構築に注力しています。

このような観点から毎年、研究活動を展開する上で厳守しなければならないルールを、近年の事故事例などを踏まえながら解説する「安全のてびき」を発行し、卒・修学生を対象とした「安全講習会」等を通して啓発を行っています。

また、日々の研究活動を、安全という観点からサポートするために、実験系職員を中心とした「安全サポートグループ」を組織し、学生・教職員と積極的なコミュニケーションをとりながら、最も良好な対応の検討・提案、および具体的な施策を行っています。

早稲田大学は事故ゼロを目指し、最善を尽くして参ります。



PGB「ポリ塩化ビフェニル」は、かつて、コンデンサや安定器といった電気機器に一般的に使用されていた物質で、毒性があります。早稲田大学には伝統ある建物が多く、それらの照明機器等にPGBが使用されていたものがありましたが、しかし現在はずべて交換し、法令に正しい適切に廃棄しています。

2006年度からPGBの廃棄処理が可能となり、早稲田大学ではできる限り早期にPGBを処理すべく計画しています。

PCBの管理

防火・救命の体制

学業に専念し、研究に打ち込むためにも、安全・安心なキャンパスは最低限必要なものと早稲田大学は考えます。

その安全・安心なキャンパスを維持するため、職員は自衛消防隊を組織し、万一火災が発生した場合には初期消火できる体制をとっています。

また、キャンパス内で急病人が出た場合、応急手当ができるよう消防署による救命救急講習を受講し心臓マッサージや応急手当のスキルを身につけています。

2006年度は早稲田大学総合健康教育センターによりAEDを学内に整備しました。

AED設置箇所一覧

設置キャンパス	設置箇所
西早稲田	総務センター西早稲田キャンパス (25-2号館) 17号館体育館 (B1F, 2F) 正門受付、北門受付
大久保	総務センターズース分室 (61号館1階) 正門受付
所沢	総務センター所沢分室 (100号館3階) 正門受付
本庄	総務センター本庄分室 (93号館1階) 本庄高等学校 (保健室)
戸山	正門受付 記念会館 第2体育館 総務センター戸山分室 (33号館1階) 高石記念プール 総務センター早稲田駅前所 (体育・シズン棟5階) 学生会館2F トレーニングセンター
栗伏見	駅伏見 体育館ホール 硬式野球場 硬式・軟式野球場 教養棟 (事務所)
上井草	上井草ラグビー部合宿所
上石神井	高等学校 (保健室)
戸田	戸田運動部合宿所
北九州	情報生産システム研究科事務所
セミナーハウス	軽井沢、草平、松代、伊豆川添、鶴川
健康運営センター	選手舎の家



総合健康教育センター

地震対策

早稲田大学は関東大震災の折、学生・教職員が力を合わせて、火災から大学を守った歴史があります。また、震災被災団を組織し、近隣の罹災者の救援も行いました。

その伝統は現在まで受け継がれています。早稲田大学では、震災以降以上の地震が起きた場合、人的・物的被害を最小限にし、早期に大学運営を復旧するため総合的に地震対策を行ってきました。

大地震対応マニュアル作成、各キャンパスへの備蓄庫の設置、建物の耐震診断と補強、防災訓練の実施などはその一例です。

2005年度から2006年度にかけては、被災困難者対策と地震発生直後の教職員対応手順のコミュニケーションに重点を置き活動しました。

また、早稲田大学は各自治体と避難所の協定を締結し、大地震発生時、避難する近隣住民のみならず受け入れる体制を整備しています。



防災備蓄庫



大地震対応マニュアル(学生用)